

事業報告会： 認知症の人と共に進めるダイバーシティ 調査結果報告

2022/3/18

みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社
社会政策コンサルティング部

▶ 問題意識：

- ✓ 「認知症の人の困りごとを聞いてきて、解決策を考える」ことではなく、地域で暮らす住民の一人として、認知症の人と一緒に地域の在り方を考えるという姿勢を広げていく必要があるのではないか。
- ✓ 「認知症の人とともに働く」という視点で、民間企業へのアプローチを更に進める必要があるのではないか。



- ▶ 目的：
認知症共生社会に向けて、新たな切り口の取組を模索している行政担当者等に向けて、後押しとなる情報を発信する。

調査の構成

- ▶ 認知症の人との対話を通じて生まれる取組の過程及び社会資源等の調査
 - ✓ 実施中または計画中の本人ミーティング等の活動と、そこから派生した地域活動等についてのヒアリング調査、現地調査
- ▶ 地域の関係者（企業等）がより一層認知症に関する理解を深めるための普及啓発
 - ✓ 民間企業の従業員向けセミナー等の効果検証

1. 認知症の人との対話を通じて生まれる取組の過程及び社会資源等の調査

- ▶ 特に「本人ミーティングにて表出された本人のおもいをきっかけに展開した活動」に着目し、
 - ✓ どのような活動組成プロセスをたどることが効果的なのか
 - ✓ 活動展開までに、どのような課題と対応があったのか。
 - ✓ 本人のおもいがどのように活動展開につながっているのか
- について情報収集した。

組成プロセスの考え方

既に活動展開が進んでいる事例だけでなく、
展開を目指して活動中、活動準備中の事例にも重要なヒントが見いだせると考え、
以下のとおり活動展開の段階を想定し、各段階の事例を収集した。

段階0：行政等が、認知症の人から意見を聞ける関係性を築こうとしている

段階1：行政等が、認知症の人から意見を聞ける関係性を築いている

段階2：本人ミーティングや本人同士が集い話し合う場で、様々な話が行われている

段階3：本人ミーティングや本人同士が集い話し合う場で、地域に資する情報・提言
が話題に出ている

段階4：本人から発出された地域に資する情報・提言を基にした新たな取組が進んで
いる（またはその準備中である）

調査協力地域（7地域）

島根県 山口県	山口県美祢市 鳥取県大山町 徳島県徳島市 A県B市 C県D市
------------	--

主な課題と対応

	課題	対応
1.本人・家族との関係性づくり	▶アウトリーチ ▶「認知症の人同士の活動」への参加意欲 ▶家族の理解	▶医療・介護分野とのネットワークを通じた声掛け ▶「認知症の人同士」であることを前面に出さない活動から始める地道な関係構築 ▶家族がおもいを表出できるコミュニケーション
2.本人ミーティング等の立上げの行程	▶立上げの具体的な手順が分からない	▶県の本人ミーティング実行委員会への参画 ▶本人活動を行っている人を招いた初回開催 ▶楽しく集まれる場づくりから、少しずつ本人ミーティングができる土壌づくり
3.参加者同士の関係性づくり	▶本人同士のコミュニケーション活性化	▶あえて本人のことをよく知らない補助役を付ける ▶席順、グループ人数の工夫 ▶話の流れをホワイトボードにメモする
4.本人活動の展開	▶案が思いつかない	▶何気ない会話から本人の「やりたい」をキャッチ ▶地域の人・組織の「やりたい」との接点を見つける
5.他機関、企業等との連携	▶どうすれば連携できるか分からない	▶認知症分野以外も含めて、様々な地域活動の場に顔を出して、様子を知っておく。 ▶認知症の人の生活に関わる様々な場にヒアリング。

徳島「WORKSあい」活動紹介

- ▶ 本人同士で会話する中で、徐々に「働きたい」「地域の役に立ちたい」といった意見が出るようになってきたことを受け、仕事にフォーカスした活動として2020年に立ち上がった。
- ▶ 仕事内容は限定せず、**広く認知症の人の活躍を目指して**活動している。
加入者の年齢制限はない。

WORKSあい



伝統農業を通じた地域活性化

介護事業所での掃除・軽作業

駅前のにぎわいづくり
認知症フレンドリーマップ（仮称）

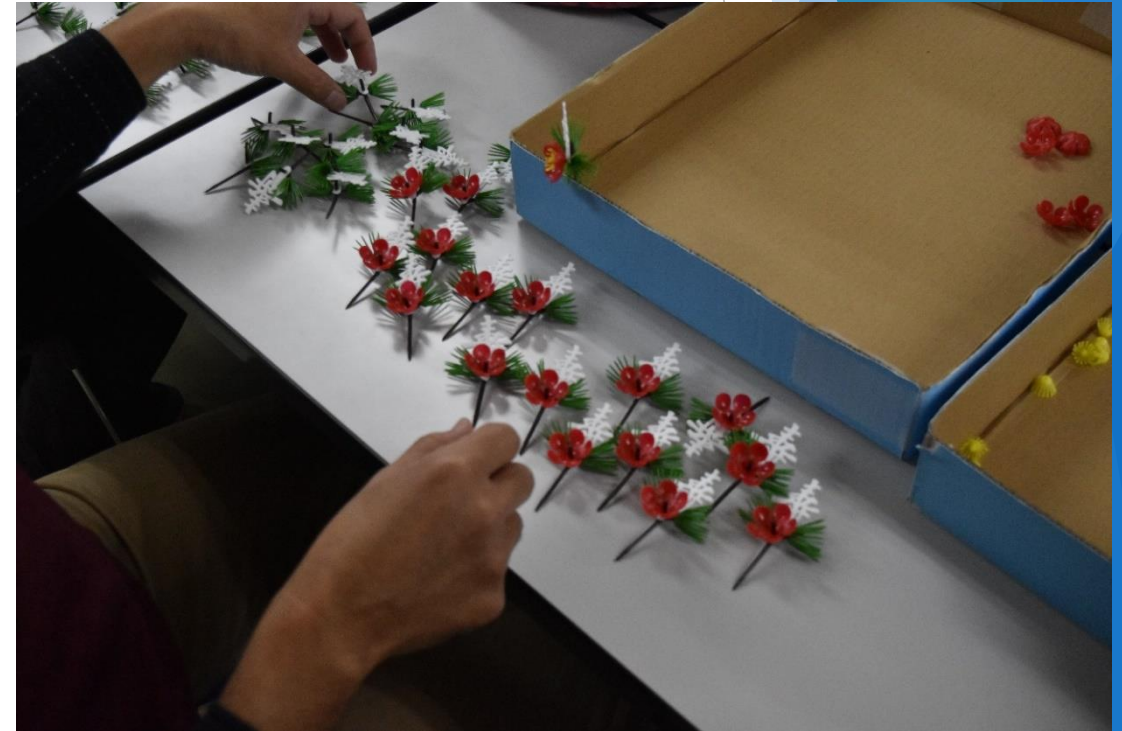
家賀集落再生プロジェクトにおける藍栽培

- ▶ 過疎化が進む徳島県つるぎ町家賀（けか）集落の活性化を目指す「家賀集落再生プロジェクト」。
世界農業遺産に指定された伝統農法で藍の栽培、加工、販売等を行う。
- ▶ WORKSあいのメンバーが、2021年春から月1回のペースで畑仕事を手伝う。
- ▶ 今後は、収穫した藍の加工品のパッケージ作業や販売、認知症カフェで提供のお菓子に使うなどの展開も検討中。



介護事業所での軽作業

- ▶ 普段の清掃で職員の手が届かないところを中心に清掃活動等の軽作業（カートの清掃など）を請け負う。
- ▶ 施設の会場を借りて、料理の飾りの組み立て作業等の軽作業も行う。
- ▶ 今後は同法人の別施設も巡回し、作業を担うことで、活動頻度を増やすことを検討中。



認知症フレンドリーマップ（仮称）作成のためのフィールドワーク

- ▶ 徳島駅周辺の活性化を目指す徳島市と連携して、駅周辺で**認知症の人にとって使いやすい、訪問しやすい場所や店舗等をまとめた地図**を作成する活動。
- ▶ 駅やバス、図書館などの公共施設や商店街・商業ビルなどを**認知症の人とパートナーと一緒に歩き、使いやすい点、使いづらい点についての意見を集約**して、改善点の提案をすることを目指している。

認知症の人と家族、家賀再生プロジェクトの 「やりたいこと」が重なった

藍畑での農作業

認知症の人
「農業をしたい」

認知症の人と家族
「みんなで一緒に
活動したい」

家賀再生プロジェクト
「農業を通じて地域を
活性化させたい」

介護事業所、駅前フィールドワークでも

介護事業所での軽作業

認知症の人
「役に立ちたい」

介護事業所
「利用者にとって快適
な環境を作りたい」

認知症フレンドリーマップ
(仮称) づくり

認知症の人
「認知症の人が
安心して外出できる
ようにしたい」

徳島市
「中心市街地を
活性化したい」

安心して話せる関係性から 「やりたいこと」が浮かび上がる



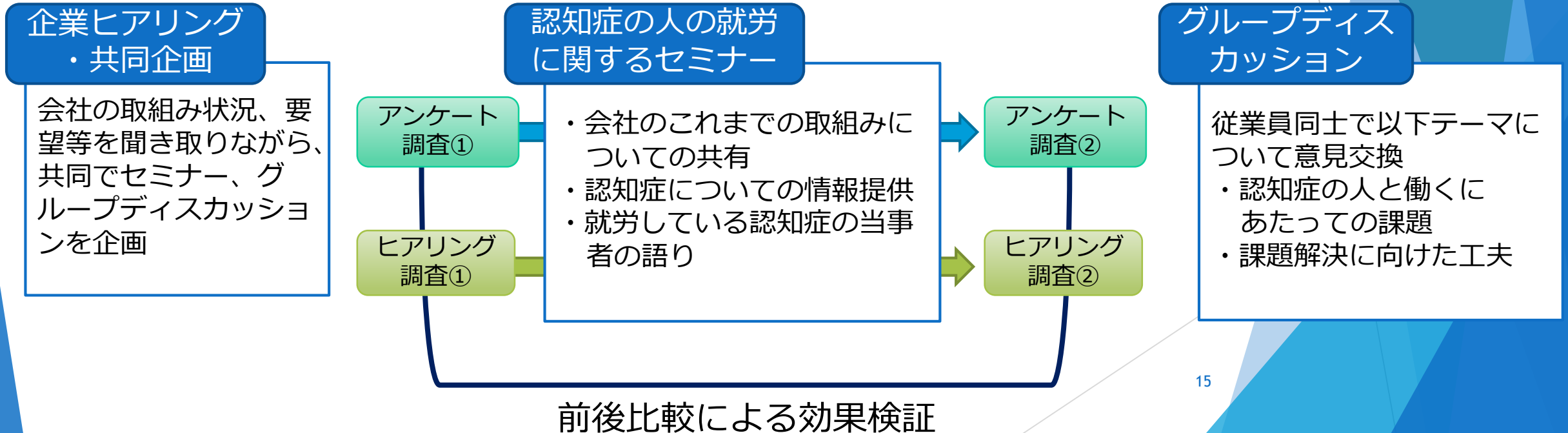
会議の場でもなくとも、
冗談交じりに飛び出す
「これ気になるんですよ」が、
次の「やりたい」につながる

「メンバーと一緒にいたい」というおもいが
生まれると、やりたいがあふれてくる



2. 地域の関係者（企業等）がより一層認知症に関する理解を深めるための普及啓発

- ▶ 民間企業2社（スーパーマーケット運営会社、介護事業所運営会社）にご協力いただき、**認知症の人と働くことがテーマのセミナー**を従業員向けに開催、効果検証を行った。
- ▶ また、認知症の人と働く上で必要な課題や、社内外に必要な方策について、従業員同士でグループディスカッションを行った。



企業との共同企画

- ▶ 協力企業2社と打合せを重ね、セミナーやグループディスカッションの企画、アンケート調査、ヒアリング調査の項目の検討を、共同で進めた。

▶ 人材の多様性に関する考え方と状況

- 障がい者、高齢者、外国人、LGBTQ等の人材雇用についての考え方・取組み状況
- 認知症の人の雇用についての考え方（実際に働いていた事例があればその詳細）
- 今後どのように進めたいか

▶ 従業員の意識

- 認知症の人と接する機会はあるか。
- 認知症に関する知識はどの程度あるか。教育機会はあるか。

▶ 伝えたい内容

- どんなメッセージを盛り込みたいか。
- どんな効果を期待するか。

▶ 調査の実現性

- 年間スケジュールにセミナーを盛り込む余地はあるか。
- アンケート調査に使えるシステムはあるか。

セミナー構成

- ▶ 会社のこれまでの取組みについての共有
- ▶ 就労している認知症の当事者の語り
- ▶ 認知症についての情報提供

就労している当事者の語り

▶ スーパーマーケット運営会社

登壇者：島田豊彰氏 ※徳島市で働く認知症の本人。WORKSあいメンバーでもある。

長年勤めた職場で就労継続してきた経験。

最初は「ひとりぼっちで暗い部屋で作業する」など、職場の配慮がかみ合わなかったこともあったが、一緒に試行錯誤してきて、いま楽しく働いていること。

▶ 介護事業所等運営会社

登壇者：I氏 ※当該企業で働く認知症の本人。

もともとIT業界に務めていたが、認知症の診断を受けてから資格取得し、介護業界に転職された経験。

利用者の方と話すことが好きで、寄り添うように接していることや、

趣味の音楽を活かして、レクリエーションを担当している楽しさ。

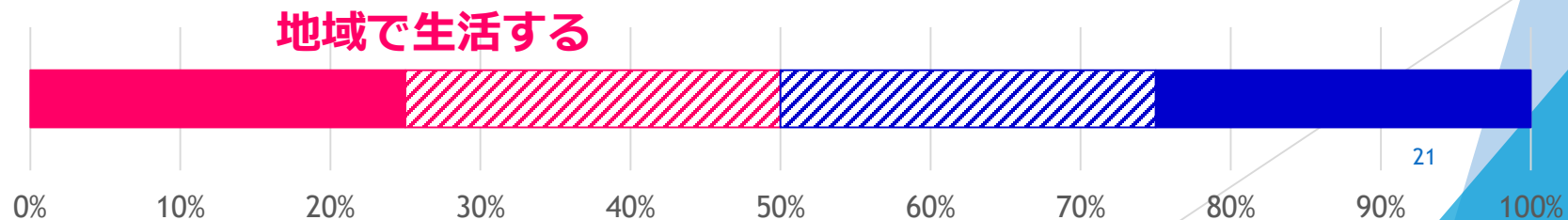
認知症についての情報提供（重点ポイント）

- ▶ 認知症の臨床的な多様性
 - ✓ 基礎疾患や重症度、周囲の環境等によって臨床症状が大きく異なること
- ▶ 認知症の人が社会参加することの重要性
- ▶ 認知症が仕事に支障を生じる主な理由とそれへの対処法
- ▶ 就労継続のためのポイント
- ▶ 認知症を疑った際の対応の具体的なポイント
 - ✓ 周囲が取る対応だけでなく、自分が認知症ではないかと疑った場合も含めて

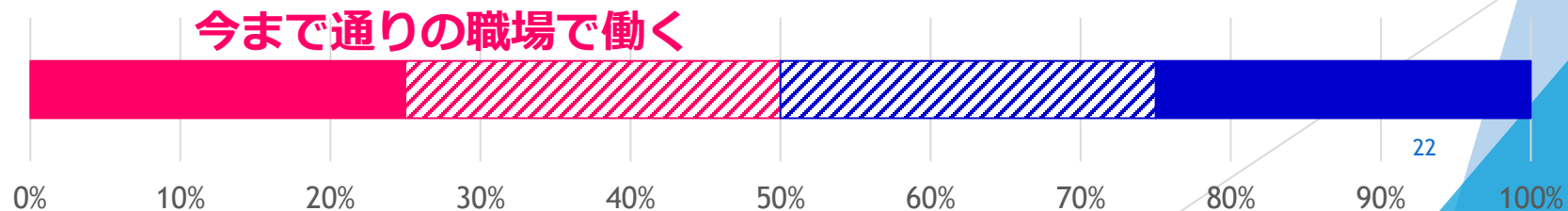
アンケート調査 報告項目について

イメージ	自分が認知症になったら
認知症の人の生活について	どう生活したいか
認知症の人が働くことについて	どう働きたいか

イメージ	自分が認知症になったら
認知症の人の生活について	どう生活したいか
■ 認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた<u>地域</u>で今までどおり自立的に生活できる ▨ 認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた<u>地域</u>で生活していける ▨ 認知症になると、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなり、介護<u>施設</u>に入ってサポートを利用することが必要になる ■ 認知症になると、症状が進行してゆき、<u>何もできなく</u>なってしまう	■ 認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた<u>地域</u>で今までどおり自立的に生活していきたい ▨ 認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた<u>地域</u>で生活していきたい ▨ 認知症になったら、介護<u>施設</u>に入所し必要なサポートを利用しながら暮らしていきたい ■ 認知症になったら、誰にも迷惑をかけないように、ひとりで暮らしていきたい



イメージ	自分が認知症になったら
認知症の人が働くことについて	どう働きたいか
■ 認知症になっても、自らの工夫や周囲のサポートなどにより、<u>今まで通りの職場</u>で今まで通りの仕事ができる ▨ 認知症になっても、自らの工夫や周囲のサポート、配置換えなどにより<u>今までどおりの職場</u>で仕事ができる ▨ 認知症になっても、<u>福祉的就労や謝金を伴う奉仕活動</u>などによりこれまでとは違う職場で働き続けることができる ■ 認知症になったら、いかなる形であれ<u>働くことは難しくなる</u>	■ 認知症になっても、自らの工夫や周囲のサポートなどにより、<u>今まで通りの職場</u>で今まで通りの仕事をしたい ▨ 認知症になっても、自らの工夫や周囲のサポート、配置換えなどにより<u>今までどおりの職場</u>で仕事をしたい ▨ 認知症になっても、<u>福祉的就労や謝金を伴う奉仕活動</u>などにより別の職場で働きたい ■ 認知症になったら、いかなる形であれ<u>働くことはないだろう</u>

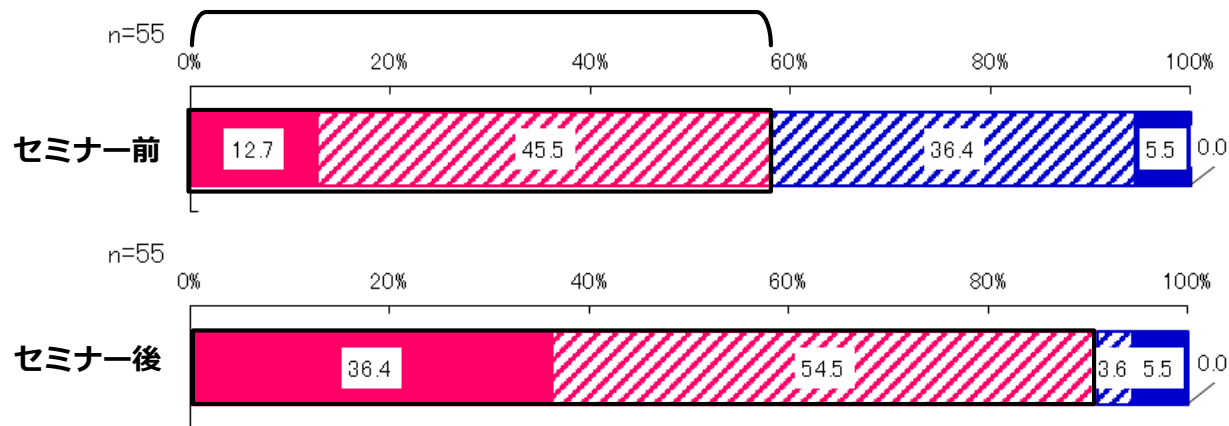


アンケート調査結果の一部

※スーパーマーケット運営会社での調査結果

認知症に対するイメージ

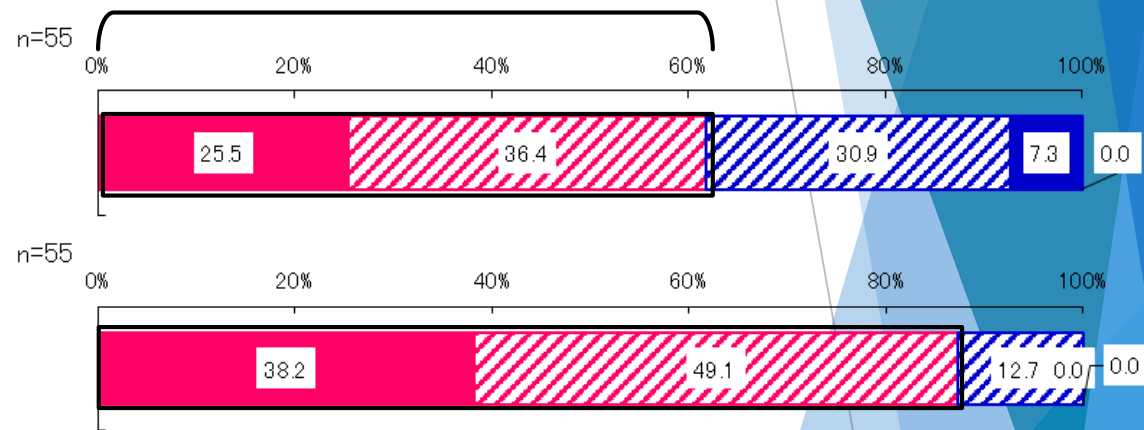
地域で生活していける



- 認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で今までどおり自立的に生活できる
- ▨ 認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける
- ▨ 認知症になると、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる
- 認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう
- 無回答

自分が認知症になったらどう暮らしたいか

地域で生活していきたい



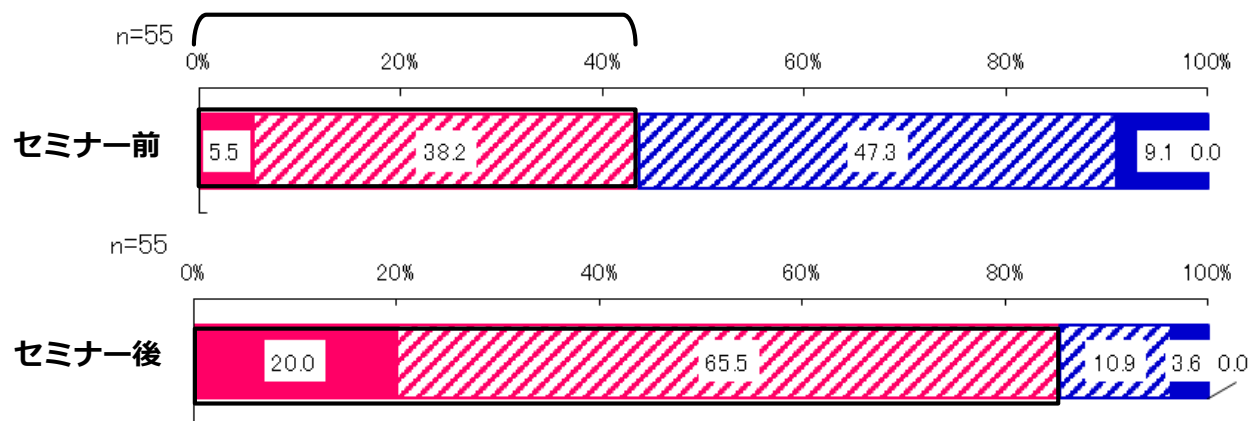
- 認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で今までどおり自立的に生活していきたい
- ▨ 認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい
- ▨ 認知症になったら、介護施設に入所に必要なサポートを利用しながら暮らしていきたい
- ▨ 認知症になったら、誰にも迷惑をかけないよう、ひとりで暮らしていきたい
- 無回答

アンケート調査結果の一部

※スーパーマーケット運営会社での調査結果

認知症の人が働くことに対するイメージ

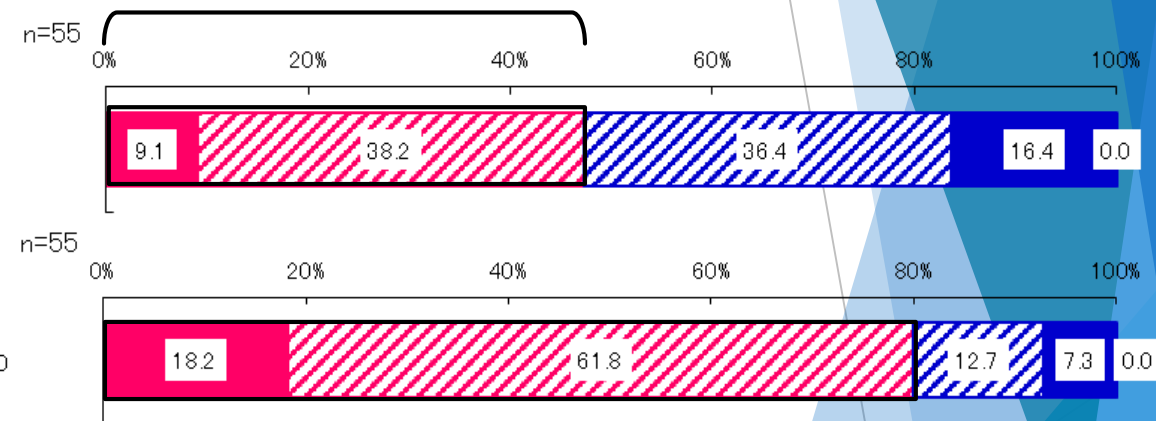
今までどおりの職場で仕事ができる



- 認知症になっても、自らの工夫や周囲のサポートなどにより、今まで通りの職場で今まで通りの仕事ができる
- 認知症になっても、自らの工夫や周囲のサポート、配置換えなどにより今までどおりの職場で仕事ができる
- ▢ 認知症になっても、福祉的就労や謝金を伴う奉仕活動などによりこれまでとは違う職場で働き続けることができる
- 認知症になったら、いかなる形であれ働くことは難しくなる
- 無回答

自分が認知症になったらどう働きたいか

今までどおりの職場で仕事したい



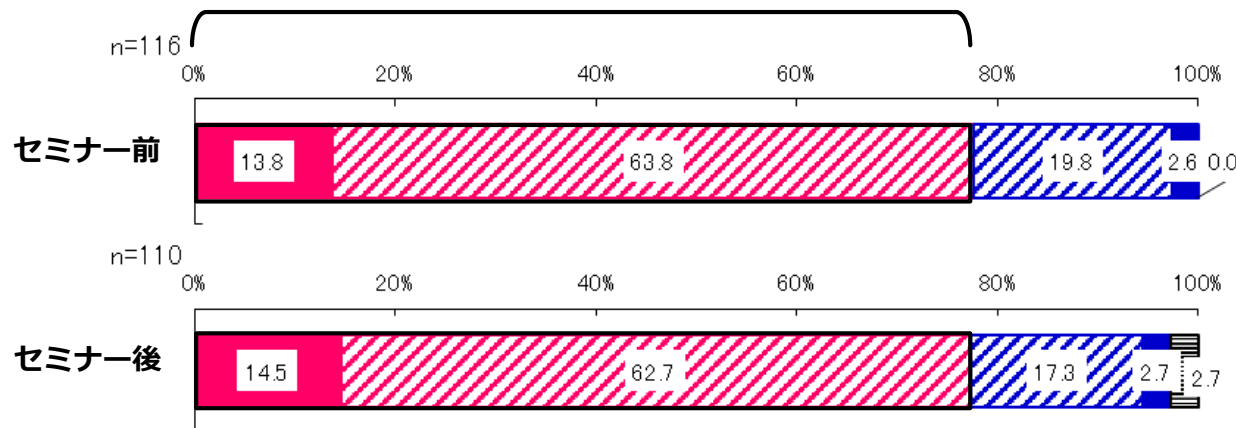
- 認知症になっても、自らの工夫や周囲のサポートなどにより、今まで通りの職場で今まで通りの仕事をしたい
- 認知症になっても、自らの工夫や周囲のサポート、配置換えなどにより今までどおりの職場で仕事をしたい
- ▢ 認知症になっても、福祉的就労や謝金を伴う奉仕活動などにより別の職場で働き続けたい
- 認知症になったら、いかなる形であれ働くことはないだろう
- 無回答

アンケート調査結果の一部

※介護事業所等運営会社での調査結果

認知症に対するイメージ

地域で生活していける

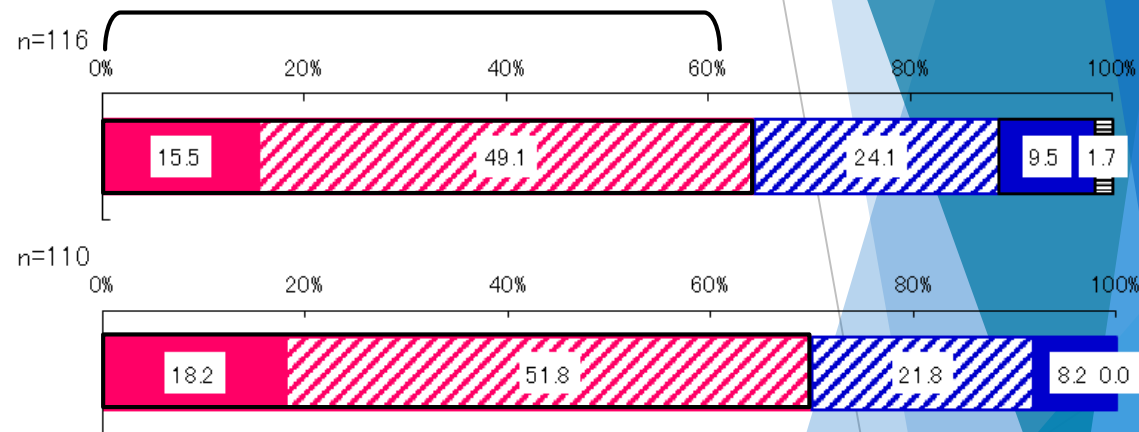


- 認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で今までどおり自立的に生活できる
- 認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける
- ▣ 認知症になると、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しく、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる
- 認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう

■ 無回答

自分が認知症になったらどう暮らしたいか

地域で生活していきたい



- 認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で今までどおり自立的に生活していきたい
- 認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい
- ▣ 認知症になったら、介護施設に入所し必要なサポートを利用しながら暮らしていきたい
- 認知症になったら、誰にも迷惑をかけないよう、ひとりで暮らしていきたい

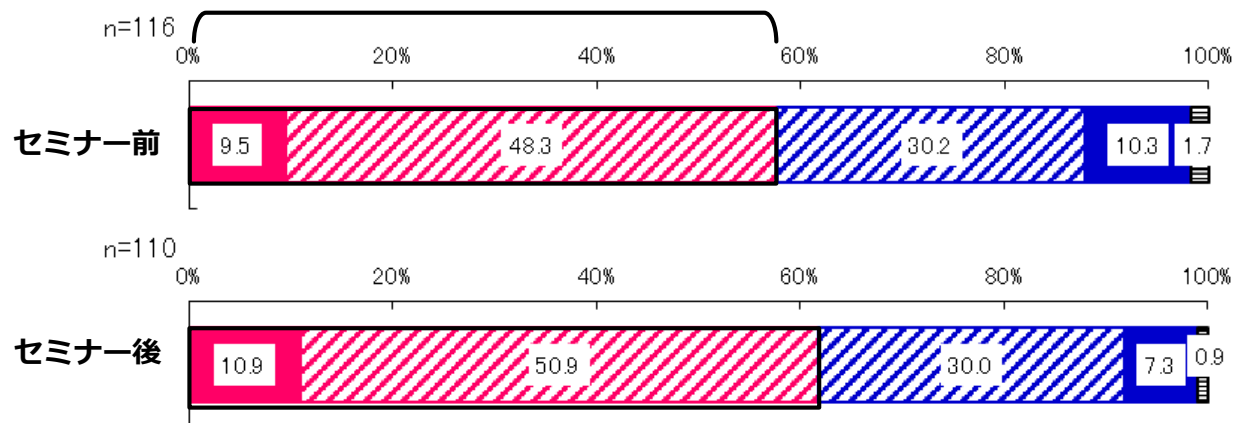
■ 無回答

アンケート調査結果の一部

※介護事業所等運営会社での調査結果

認知症の人が働くことに対するイメージ

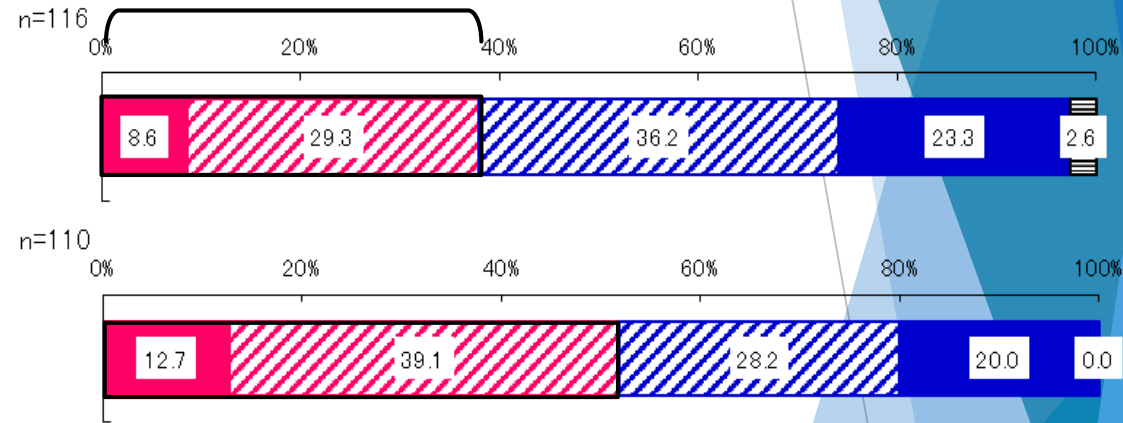
今までどおりの職場で仕事ができる



- 認知症になっても、自らの工夫や周囲のサポートなどにより、今まで通りの職場で今まで通りの仕事ができる
- 認知症になっても、自らの工夫や周囲のサポート、配置換えなどにより今までどおりの職場で仕事ができる
- 認知症になっても、福祉的就労や謝金を伴う奉仕活動などによりこれまでとは違う職場で働き続けることができる
- 認知症になったら、いかなる形であれ働くことは難しくなる
- 無回答

自分が認知症になったらどう働きたいか

今までどおりの職場で仕事したい



- 認知症になっても、自らの工夫や周囲のサポートなどにより、今まで通りの職場で今まで通りの仕事をしたい
- 認知症になっても、自らの工夫や周囲のサポート、配置換えなどにより今までどおりの職場で仕事をしたい
- 認知症になっても、福祉的就労や謝金を伴う奉仕活動などにより別の職場で働き続けたい
- 認知症になったら、いかなる形であれ働くことはないだろう
- 無回答

ヒアリング調査結果の主なポイント

「認知症の人にできるのはこの仕事」と決めつけるのではなく、
本人のおもいや、経験、能力に合わせて対応を考えるとの考えが強まった

■スーパーマーケット

・認知症の人に任せられるのは
単純作業
同じことを繰り返す作業
に限られるという発言が、非常に多くみられた。

本人の発信

・就労継続に係る経緯を本人自ら語ったことで、一人の「はたらく人」としての姿を見せた。

専門知識

・認知症の臨床症状が多様であり、できることも多くあることを伝えた。

・単純作業に限定する発言が減り、
より幅広い仕事を任せられると思うようになった
一通りの仕事を任せてから、**適性を見極めるのが良い**
との発言が、多く現れた。

■介護事業所

・本人のおもいの尊重に言及した発言
本人の様子を見て対応を決めるとの発言
は少なかった

本人の発信

・本人が仕事について生き生きと話す様子を発信した

会社の取組

・認知症の進行に合わせて業務内容と配置を変更していることを伝えた

・本人のおもいの尊重が重要だ
本人の様子によって対応を決める
という趣旨の発言が大幅に増加した

ヒアリング調査結果の主なポイント

自身が認知症になった時を想定した時、周囲と協力関係を築くためにカミングアウトしたいとポジティブに捉えるようになった。

■スーパーマーケット

・カミングアウトに前向きではないが、周囲の協力を得て就労継続するには、カミングアウトせざるを得ないとの発言があった。

本人の発信

- ・職場と話し合い、試行錯誤しながら仕事のやり方を調整していったことを伝えた。
- ・「認知症になって周囲とさらにコミュニケーションを取るようになった」との経験を伝えた

企業の取組

- ・認知症の人も含めて、一緒に働く環境づくりに積極的な自社の姿勢を確認した。

・カミングアウトすることで周囲の協力を得ることが出来る、お互い気持ちよく働ける等、カミングアウトを前向きにとらえた発言が現れた。

ヒアリング調査結果の主なポイント

一方、周囲の目線が気になる、迷惑をかけたくないという思いも強く残った。

■スーパーマーケット

- ・認知症になったら周囲の迷惑になるので働かないという発言もあった。
- ・周囲の理解、フォローが重要との発言があった。

- ・周囲の目が気になるため、カミングアウトしないという発言があった。

本人の発信

- ・職場と話し合い、試行錯誤しながら仕事のやり方を調整していったことを伝えた。

専門知識

- ・認知症の臨床症状が多様であり、できることも多くあることを伝えた。
- ・認知症の人が就労継続するためのポイント（マニュアル化、声掛け等）について情報提供した。

全体

- ・認知症の人に働く選択肢があることを伝えた。

- ・就労継続にやや意欲を示す発言に変化した。
- ・周囲の理解、フォローが重要との発言が増えた。
- ・周囲の迷惑を気にする発言が増えた。
- ・管理職では、部下の負担が増えることを懸念する発言が現れた。

- ・カミングアウトして周囲の協力を得ることの重要性は理解できたが、周囲の目が気になる、できればカミングアウトしたくないとの発言は変わらずあった。

ヒアリング調査結果の主なポイント

スーパーの具体的な業務に踏み込むと、間違いや物忘れのリスクを心配する声が残った。

■スーパーマーケット

- ・品質管理、安全管理に関わる仕事や、スピードが求められる仕事、包丁を使う作業は任せられないという意見があった。
- ・もの忘れがあるので、接客は任せられないという意見があった。

本人の発信

- ・職場が小売り業界ではなかった。

全体

- ・スーパーでの具体的な業務に踏み込んだ情報がなかった。
- ・間違いや物忘れに伴うリスク（商品回収、食中毒、クレーム等）の管理についての情報がなかった。

- ・品質管理、安全管理に関わる仕事
スピードが求められる仕事
については、否定的な発言は変わらなかった。

ヒアリング調査結果の主なポイント

認知症の人と働く上での不安感が強まった。

■介護事業所

- ・認知症の人と働く中では不満が出るだろうという発言はなかった
- ・サポートの仕方に悩む、と語ったのは認知症の人との就労経験がある人だけだった

全体

- ・認知症の人の就労について具体的にイメージする機会を提供した



- ・認知症の人と働く中では不満が出るだろうという発言が大幅に増加した。
- ・認知症の人と就労したことのない人も、サポートの仕方について悩む、と発言するようになった。

まとめと考察

- ▶ セミナー前後で、認知症の人や、認知症の人が働くことについての認識はポジティブに変化した。
 - ▶ 認知症の人ができる仕事は●●と予断を持たず、本人のおもいや経験を重視する考え方が強まった。
 - **実際にはたらく認知症の人の発信は、企業向け啓発においても効果的。**
 - **「働く」を切り口にした知識提供は、認知症の人と働くイメージの解像度を上げる。**
-
- ▶ 具体的な業務に踏み込んだ情報発信が不足。
 - ▶ 自分が認知症になった場合は「迷惑をかけたくない」「周囲の目が気になる」という姿勢がある。
 - **不安感を減らすためには、様々な業種で働く認知症の人、同僚、上司、人事部等の声を集め、課題も含めて発信する。**
 - **課題を踏まえ、「自分たちに何ができるか」を議論するグループディスカッション等も、実践的な議論が期待できる。**
-
- ▶ 認知症の人と働くにあたっての「不安感」は残った。
 - **行政、専門職等が第三者的な立場から関わることが求められている。**
(例：家族との仲介、本人のメンタルケア等)
 - 早い段階から、認知症の進行も見越した中長期的な視点で関わる必要がある。**

ご清聴ありがとうございました